

# 市民文芸

## 短歌 令和四年阿南市春季短歌誌上大会 選

### 〈題詠〉『友』

特選

辞書はいう人を恐れぬバカ尉鷄とコロナ禍に会える唯一の友を 倉橋壽満子

特選

故郷の友ら連れだちさりげなく我が家を訪ね案じてくれる 入谷五十鈴

特選

バツ3の友は忙し親戚の冠婚葬祭大量出費 定本 直子

特選

友の死の知らせの電話午前五時扉の向こう悲痛な叫び 西井あつ子

特選

幸せな老後とききぬ友の住む海見ゆる町は阿波の最果て 金本ひろみ

特選

「変なところに入れられちゃって」という友の頬ふつくらと声の明るし 佐野 幸子

特選

脱衣所に暖房入れて準備する風呂場で倒れし友を偲びて 森 ゆき子

## 俳句

阿南市俳句連合会 選

「こんちきちん」ならしの稽古秋祭

岡久 玲子

蟋蟀の逃げる草刈り機の刃の先

横井 知昭

時化てくる風の気配や猫じやらし

宮崎三千代

古備前の壺の罅跡 吾亦紅

中富はるか

名月や夫の回復願かける

東 良子

少年の聲変りして夏終はる

東條 明宏

巡礼を乗せてゴンドラ霧の中

田木 勲

後絶えぬ悲しきニュース雨の月

西條 佳恵

新涼の那賀の流れで深呼吸

片山 幸美

盆ちようちん灯せば草の絵のそよぐ

鈴木 順子

## 川柳

阿南川柳会 選

毎日の暗いニュースに笑顔消え

佐藤つたえ

色褪せた服にまぶしい過去がある

鈴木レイ子

夕方は蚊が寄ってくる血は若い

田上 鶴子

コスモスに暫し田んぼをお貸しする

高木 旬笑

笑おうね人生一度きりだから

多田紀久代

無理しない努力しないは紙一重

西田 修身

皺わすれ思う存分笑いたい

原 公美子

### 一般応募

真夜中に眠剤と言ひ酒を飲む

秋川 和子

錆びた脳まだ捨てられぬ好奇心

鳥尾美津子

ITと言葉交わして昼ごはん

武田 敏子

## 漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

### 鍛冶ヶ峰

原 美智子

象徴峰頂市中央

象徴の峰頂 市中央に隆く

花鳥風烟四季豊

花鳥風烟 四季豊なり

聞説山中刀匠住

聞く説く 山中刀匠住みしと

古祠社稷衆人崇

古祠 社稷 衆人 崇ぶ

※聞く説く―聞くことには

### 秋を愉しむ

池田 行子

桂花已發見秋生

桂花已に発いて 秋の生ずを見る

絡緯提携庭有聲

絡緯提携して 庭に声有り

不飽只看只聽是

飽きず只だ見て只だ是を聴く

閑窗欲暮素風清

閑窓暮れんと欲して 素風清し

※絡緯―こおろぎ

### 偶成

大地 和子

野草萋萋終盛夏

野草萋萋 盛夏終わり

秋風瑟瑟近新霜

秋風瑟瑟 新霜近し

豈知寒暑須臾改

豈に知らんや 寒暑須臾にして改まるを

赤卒無心染夕陽

赤卒無心 夕陽に染む

※赤卒―赤とんぼ

